

特殊詐欺から高齢者を守るためには

広島県呉市立和庄中学校 2年 中井 柚芭



「このハガキはなんじゃろうか？」

これは私が小学生の頃、祖母の家に遊びに行ったときのことで、祖母は一通のハガキを私に差し出しました。

「総合消費料金未納分訴訟最終通知書?!」

祖母に届いたハガキによると、祖母の総合消費料金が未納のようで、契約会社や運営会社によって民事訴訟の訴状が出されているとのことでした。

「税金はちゃんと納めとんじゃけどねえ、総合消費料金がよくわからんのよ。」

祖母は心当たりはないけれど、年のせいかわらず知らずの間に自分が何かやらかしてしまったのではないかと不安になり、一生懸命記憶を辿っている様子でした。このハガキには続きがあり、祖母からの連絡がない場合は法的手続きに移行し、給与等の差し押さえをするとの記載がありました。さらに不安をあおったのが、裁判の取り下げ最終期日です。その期日が迫っているとなると現実味を帯びてきます。だけど祖母はどうしても心当たりがなく、自分が訴えられているこの状況が大変気持ち悪いのです。早く何とかして訴訟を取り下げてもらいたいようで、その表情には焦りが見えてきました。祖母は、

「このお問い合わせ窓口の番号に電話したら、何が起こるとるんか教えてくれるんかね？」

とハガキに書いてある番号を指さしました。優しい祖母が人から訴えられるようなことをするはずがない…。私は祖母からハガキを取り上げて、近くにいた母に事情を説明しました。母も同じくハガキが怪しいと思い、スマホを取り出して「総合消費料金未納分訴訟 ハガキ」と検索しました。すると、ある県の警察署のホームページに、「このハガキは詐欺です!」とはっきり大きな文字で書いてありました。

「おばあちゃん、スマホ見て! 同じようなハガキ…これは特殊詐欺よ。絶対にこの番号にかけちゃいけんよ!」

私は大きな声で祖母に訴えました。

「ほんまよ。似とるねえ。」

と、祖母はどっと疲れが出たような感じで答えました。

この日は納得してもらい、ことは丸く収まったと思っていました。しかし後になって祖母から聞かされた話ですが、インターネットをしない祖母にとってスマホの中の情報は半信半疑だったそうです。しかも地方裁判所管理局を名乗る公的機関風のハガキ。心配性の祖母は性格上やっぱり気になって仕方がなか

ったようで、後日、警察署にそのハガキを持って行って相談したのです。警察署では身に覚えのないものはそのままほっておくこと、絶対に電話しないことを念を押して言われたそうです。家族がインターネットで調べた情報は正しかったのですが、やはり警察官の方に言われた方が説得力があります。また、裁判所からの書類は真実か嘘かを確認する必要があるので注意したほうが良いと優しく諭されたそうです。このハガキの地方裁判所管理局という組織は実在しませんが、裁判所から届く本物の書類もあるということを頭に入れておく必要があります。

次に詐欺だと分かった祖母は、ハガキの窓口ではなく、消費者センターにも電話して確認したそうです。念には念を入れる、用心深い祖母の行動には驚きましたが、「大丈夫」という保証が欲しかったのだと思います。電話越しに対応してくださった女性が丁寧で、話してほっとしたと祖母から聞きました。そこでも、同類のハガキが出回っており、返事をせずにそのままほっておくように言われました。

警察署、消費者センターの両方で詐欺だと確認できたので、祖母は心底安心してようやく心のモヤモヤから解放されたのです。私達若者世代はスマホですぐ検索すると答えが見つかります。中には虚偽の情報もあるので注意が必要ですが、ある程度のことは分かる世の中です。しかし、高齢者からしてみれば安心材料がスマホではなく、人なのかもしれません。優しく丁寧に対応して下さった警察官の方、消費者センターの方。人間の温かさそのものが高齢者の詐欺被害予防の特効薬のように感じました。そして私には、丁寧な対応の前に犯罪に対する知識そのものが不足しています。ニュースや新聞をあまり見ない私ですが、もっとアンテナを張って世の中の動きを知らなければなりません。私自身、防犯意識を高めることで、高齢者の心理につけ込む悪質な犯罪を阻止したいです。今回、たまたま祖母宅を訪れていたことが幸いでした。今後も普段と変わった様子はないか見守ることを基本に、「まさか自分の祖母が」と油断せず、家族間で相談しやすい環境を築いていきたいです。